

Standard for the New Normal

ニューノーマル時代のスタンダードへ。

社会のあり方や毎日の生活様式が変容し、

新たなニューノーマルがつぎつぎに生まれています。

求められているのは、乗る人の心地よさを大切にしたビルに、暮らしに寄り添うデザイン。

先進の技術と新機能を盛り込み、

開発コンセプト「HUMAN FRIENDLY」を具現化した標準型エレベーター。

誕生 アーバンエースHF

新しいデザインで、新しいシステムで、

新しいソリューションで、ニューノーマル時代のスタンダードになる、

日立からのひとつの回答。

もう、次の未来は始まっている。

BUILLINK
ビルリンク

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「心地よさ」のスタンダード。

さりげない心地よさが何より大切なものと気づいたとき、
私たちの気持ちにも、小さな変化が生まれている。
エレベーターに乗っている時間を、
どうしたらもっと快適なものにできるのか。
タッチレスやソーシャルディスタンスを、どうしたらもっと何気ない、
ふだんの心遣いにできるのか。
心地よさをスタンダードにすることから、かけがえのない
日常は始まる。



かご内クリーン運転

エレベーターの利用後に一定時間が経過すると、
自動で戸を開き強制換気ファンを運転します。空気を入れ替えた後、
自動で戸を閉めて「ナノイー X」※発生装置により、かご内を清潔に保ちます。

※「nanoe」、「ナノイー」及び「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。



非接触登録装置（乗り場操作盤）

乗り場ボタンの近傍にモーションセンサーを設置。
利用者の手の動きを検知し、
非接触で呼び登録をすることができます。







LINE連携タッチレスエレベーター呼びサービス エレトモ

スマートフォンでエレベーターを呼び出し、
ボタンに触れることなくエレベーターに乗ることができます。

※ LINE及びLINEロゴは、LINE株式会社の登録商標です。

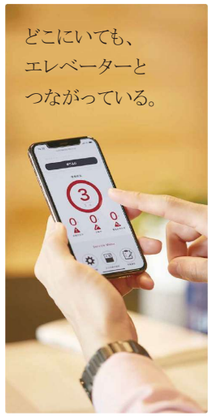
「コミュニケーション」のスタンダード。

エレベーターに乗っているとき、あなたは何を想うのだろう。
ほっと息をつく時間、これからの予定を考える時間。
その大切なひとときを、ときめきが生まれる場に変えてゆく。
一人ひとりのための情報を、きめ細かく案内するサービスと、
どこにいてもエレベーターの状態を見ることが出来る。
上質なコミュニケーションが、
エレベーターのスタンダードになる。



乗り場液晶インジケーター

6.2インチカラー液晶パネルを採用した乗り場液晶インジケーター。
かご内液晶インジケーターと同様に、
利用者への情報提供をよりスムーズに行います。



BUILLINK（ビルリンク）

ビルオーナーさま・管理者さま向けのダッシュボード。
現在の稼働状況や保全状況などの情報が、
いつでもどこでも確認できます。



BUILLINK
ビルリンク



日本語・英語



中国語・韓国語



緊急時4カ国語表示・放送

液晶表示と放送を多言語化。
日本語・英語／中国語（簡体字・繁体字）・韓国語を交互に切り替えて表示・放送します。

「安心」のスタンダード。

人を守ること、そして社会を守ってゆくこと。
もしも大きな地震や、災害などにみまわれたとき、
いちばんに考えたいのは利用者が安心できること。
被害をできるだけ抑える機能と、
早期に復旧させるテクノロジーで
「安心」を、スタンダードなものにしてゆく。



ヘリオスドライブ

地震で停止した時、自動診断運転で状態確認。
異常がなければ 利用可能な状態に仮復旧します。



画像解析システム連携

立体検知まで可能な顔認証専用端末で、
不審者の侵入を防止しつつ、
衛生的な移動環境をお届けします。



ヘリオスレスキューeye（双方向）

遠隔救出時、かご内の液晶インジケーターに
対応者の画像を表示させ、
利用者の不安を和らげます。

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

日立は、導入後もずっと続く安心を。

ずっとつながっているからこそ、見えてくるものがある。
たとえば、エレベーターの稼働状況や保全状況、復旧状況などの情報。 あるいは遠隔監視端末とビル設備が連携して、
まとめて見守れるサービス。これらのソリューションにより、お客さまとお客さまのビルをつなぐことで、
施主、管理者、利用者のすべての人に、確かな安全・安心・快適を提供してゆきます。

ビル設備が、
見える
つながる
動かせる。



LUMADA

BUILLINKはエレベーターに設置された
「遠隔知的診断装置（ヘリオス）」と、
現場の保全技術者からの
保全サービスデータを活用しています。
日立は、18万台以上のビル設備の
さまざまな稼働データを遠隔でリアルタイムに
収集・監視し、予防保全を提供してきた
システムです。
過去からの80万件を超える蓄積データを元に
お客さまにビル設備管理に必要な
情報のサービスを提供しています。

BUILLINK
ビルリンク

エレベーターの稼働状況や保全状況を、
パソコンやスマートフォンから確認できます。
またエレベーターの運行制御や、情報表示の変更、保全レポート表示
などの多彩なメニューにより、ビル管理業務の効率化に貢献します。

・BUILLINK（ビルリンク）
・スーパーヘリオスメンテナンス



設備まるごと監視サービス

エレベーターの遠隔監視回線を活用し、
各種ビル設備を一括監視できるサービスです。
ビル設備のために新たに回線の数を増やすことなく、
低コストで安心の管理体制が構築できます。

LUMADA

Lumadaとは、デジタルイノベーションを加速する日立のソリューションです。

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

SDGsへの取り組み

安全・安心・快適に暮らせる持続可能な社会の実現に向けて。

日立ビルシステムは、SDGs*の目標7、8、11に貢献してゆきます。

＊SDGs：国連で採択された「持続可能な開発目標」

- エレベーターなどのビル設備をリニューアルすることで消費電力を減らす
- グローバル事業を拡大することで、世界各国での雇用を増やす
- 社員が働きやすい環境にする（働き方改革）
- 高齢者も含め、誰もが安心して移動できる昇降機をお客さまに提供する（バリアフリー）
- 災害時には迅速に復旧させる（耐震安全増し）





2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための国際目標。
17のゴール・169のターゲットから構成され「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

環境負荷低減への取り組み

交換部品のリサイクル

保全サービスによる部品交換時の排出部品を分別、リサイクルし、最終処分廃棄物ゼロ化に取り組んでいます。

有害物質の排除

アスベストの全廃、RoHS＊1規制対象化学物質（鉛、六価クロムなど）の削減など、有害化学物質の排除に取り組んでいます。
また、シックハウスのもととなるホルムアルデヒド濃度を0.08ppm＊2以下にしています。

保全サービスに向かう移動手段の省エネ

保全サービスに向かう際に使用する自動車には、環境・安全に配慮した走行をガイドするデジタルタコグラフを設置し、エコ運転を実践。
都市部では自転車も活用しています。

据付工事の作業効率向上

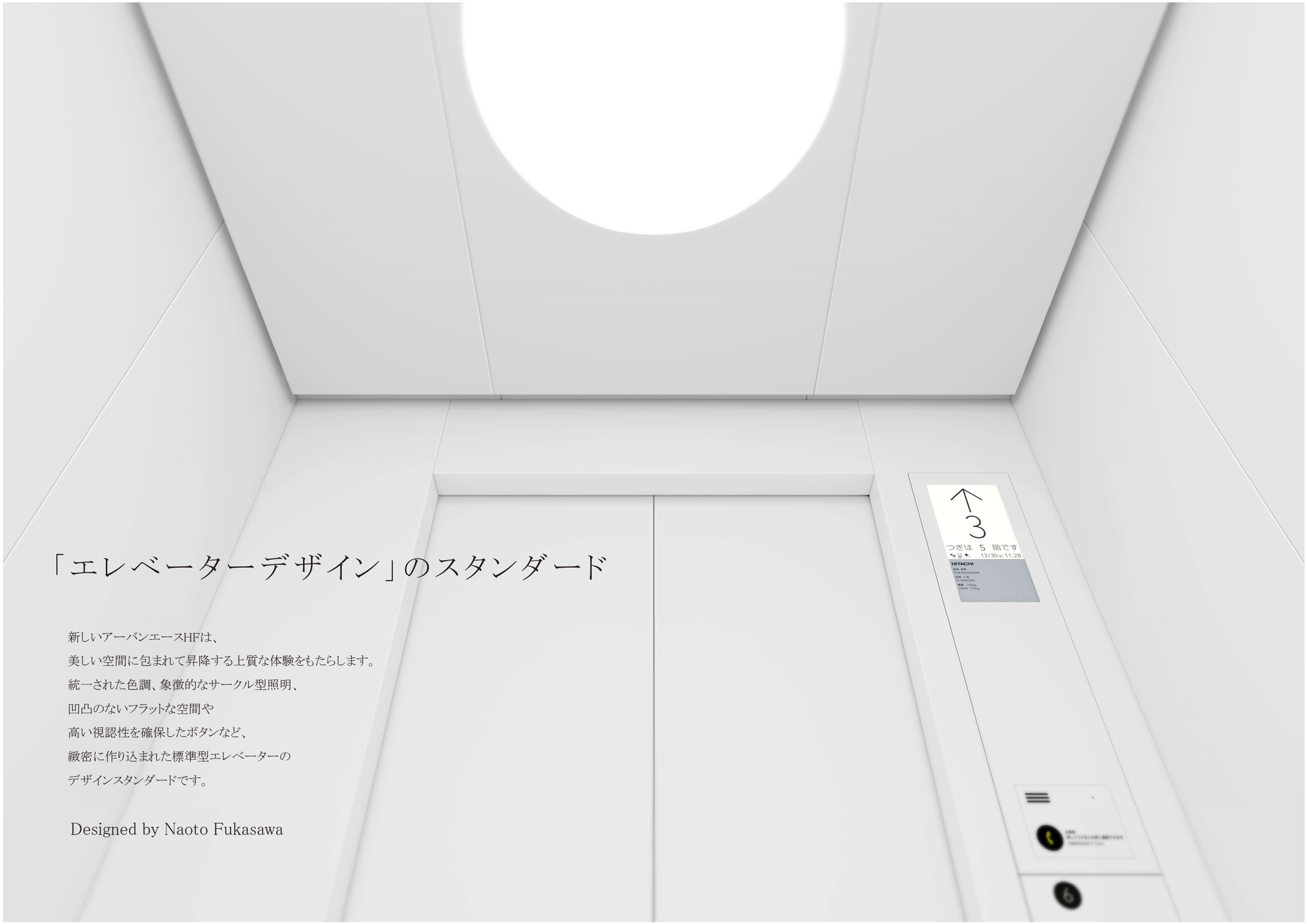
溶接作業箇所の削減、せり上げ装置導入により各階での作業効率が向上し、消費電力が低減。
従来のエレベーター据付工事と比べ27%のCO^2排出量削減を図っています。

保全作業の効率向上

安全・安心にお乗りいただくため、エレベーターにとってロープの点検や交換は欠かすことができないものです。 日立は耐久性の高いロープ芯の採用、使用量を少量にできる潤滑油の開発により、従来比で、点検時間を27%短縮し、劣化に伴うロープの取り替え回数を40%低減できる見込みです。これにより、エレベーターの休止時間を 縮減、ロープの廃棄量を低減します。

＊1 電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会・理事会指令
＊2 厚生労働省シックハウス（室内空気汚染）問題に関する検討会 室内濃度指針値

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.



「エレベーターデザイン」のスタンダード

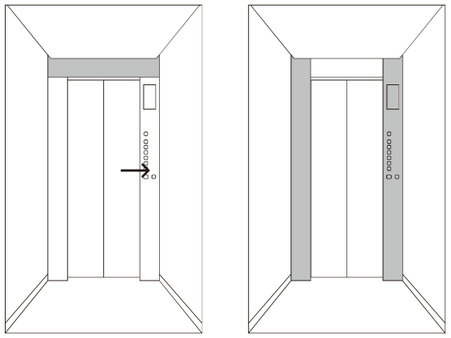
新しいアーバンエースHFは、
美しい空間に包まれて昇降する上質な体験をもたらします。
統一された色調、象徴的なサークル型照明、
凹凸のないフラットな空間や
高い視認性を確保したボタンなど、
緻密に作り込まれた標準型エレベーターの
デザインスタンダードです。

Designed by Naoto Fukasawa

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.



ベーシック天井(BS-01)
天井を落し天井としました。
かごの中心に配置された
サークル型の照明が
天井から優しく
空間を包み込みます。



前側板
前側板の構造を天井につながるデザインとし、
開放感のあるすっきりとした空間になりました。



かご内インジケーター
表示類をインジケーター周辺に集約しました。
読みやすいフォントを採用し、最もコントラストの高い
ホワイトとブラックの配色でさらに視認性を高めました。



換気口
ベーシック天井(BS-01)を落し天井としました。
換気口が目立ちません。



フラットな操作盤
側板と同色で段差なく収まる
操作盤はかご空間と一体化した
デザインです。

ハイコントラストボタン
ホワイトとブラックの配色で
コントラストを確保し、数字を
見やすくしました。凸文字で触っても
わかりやすい形状です。

開閉ボタン
視覚的にわかりやすくするため、
色と大きさに差をつけました。
かご空間に調和するグリーン色です。

角形ハンドレール
新しいかごデザインに合わせた
フラットな角形ハンドレールを
用意しました。角を丸めた
引っ掛かりのない形です。





フラットな横型操作盤
これまで段差のあった横型操作盤も側板に対して
フラットに収まる仕様にしました。
オーダー型エレベーターのような上質な空間を演出します。

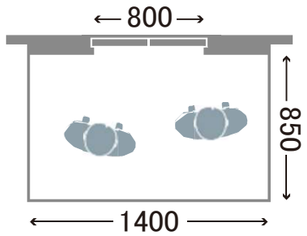
CG合成のため実際とは明るさや色合いなど異なる場合があります。

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

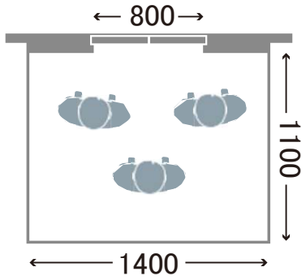
かごサイズラインアップ

（単位：mm）

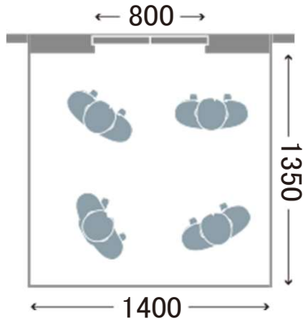
P型 乗用



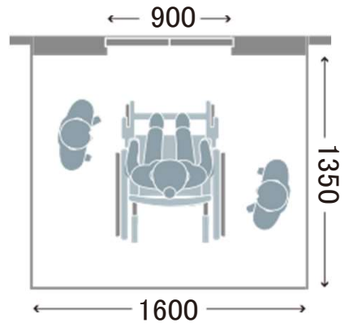
450kg/6人乗り



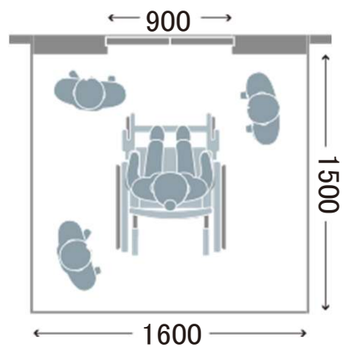
600kg/9人乗り



750kg/11人乗り

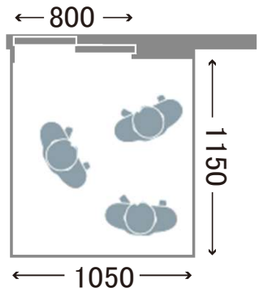


900kg/13人乗り

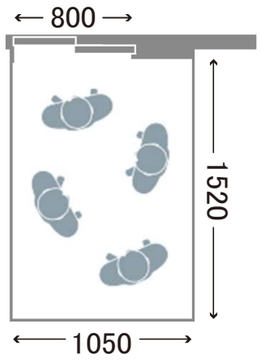


1000kg/15人乗り

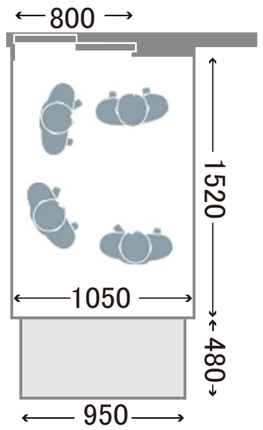
R型 住宅用



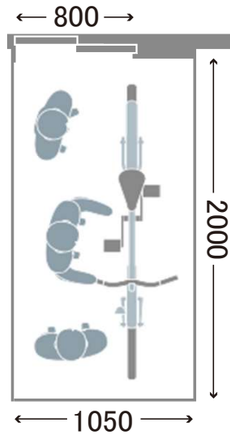
450kg/6人乗り



600kg/9人乗り

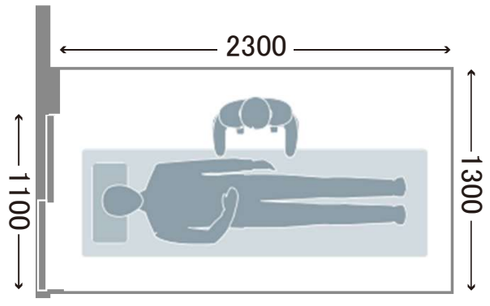


600kg/9人乗り（トランク付）

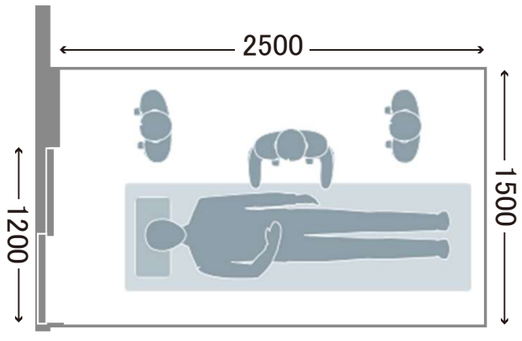


850kg/13人乗り

B型 寝台用



750kg/11人乗り



1000kg/15人乗り

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「心地よさ」のスタンダード。

エレベーターは何よりも快適でなくてはならない。
ニューノーマル社会ではタッチレスでの移動やかご内換気、
ソーシャルディスタンスの確保などが求められます。
“清潔でより心地よい移動環境を”
これが「心地よさ」のスタンダードです。



イメージ図

かご内クリーン運転

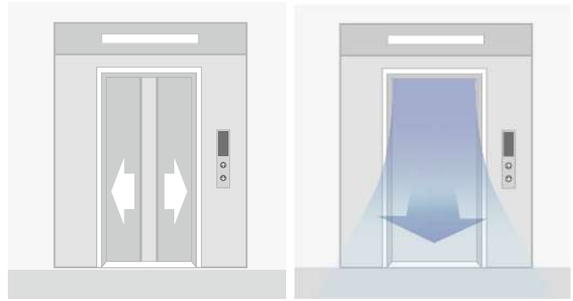
標準装備仕様

エレベーターを利用した後、自動で空気を入れ替えて清潔に。

エレベーターの利用後に、一定時間が経過すると、次の利用者のために、
自動で戸を開き強制換気ファンを回してかご内の空気を入れ替えます。
さらに、空気を入れ替えた後に、自動で戸を閉めて「ナノイー X」発生装置により、
かご内を清潔に保ちます。
※ かご上にクーラーが設置される場合は適用不可です。

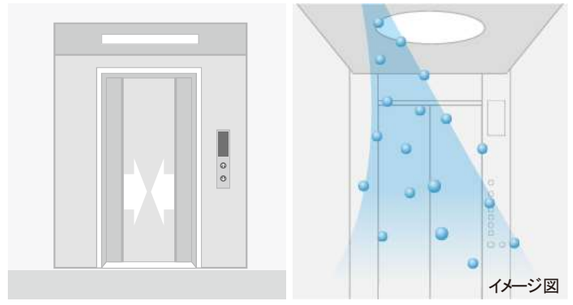
空気の入れ替え

行先階呼びにサービスした後に、
一定時間が経過すると、
自動でエレベーターの戸を開き、
強制換気を行います。



かご内の清掃

強制換気完了後、自動でエレベーターの
戸を閉じ、
「ナノイー X」発生装置を起動することで、
かご内の快適空間を演出します。

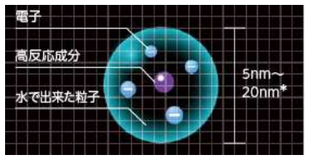

イメージ図

「ナノイーX」発生装置 | かご内に「ナノイー」を放出します。

ナノイーX

「ナノイー」とは

「ナノイー」は、空気中の水に高電圧を加えることで生成されるナノサイズの微粒子イオンです。「ナノイー X」は、「ナノイー」の10倍の量のOHラジカルを含む微粒子イオンです



＊ 1nm（ナノメートル）は10億分の1m

「ナノイー X」技術によって、ウイルス★1・菌★2・カビ菌★3・花粉★4を
抑制・付着したニオイを脱臭★5

★1：実使用空間での実証効果ではありません。約25m³空間での約8時間後の効果です。※1　★2：実使用空間での実証効果ではありません。約23m³空間での約8時間後の効果です。※2　★3：実使用空間での実証効果ではありません。約23m³空間での約8時間後の効果です。※3　★4：実使用空間での実証効果ではありません。約23m³空間での約8時間後の効果です。※4　★5：実使用空間での実証効果ではありません。約23m³空間での約12分後の効果です。※5

※1：【試験機関】（一財）日本食品分析センター【試験方法】試験室（約25m³）において布に付着させたウイルス感染価を測定 【抑制の方法】「ナノイー」を放出 【対象】付着したウイルス 【試験結果】8時間で99%以上抑制。第13001265005-01号 試験報告書発行日：2013年2月11日（試験は1種類のみのウイルスで実施） ※2：【試験機関】（一財）日本食品分析センター【試験方法】試験室（約23m³）において布に付着させた菌数を測定【抑制の方法】「ナノイー」を放出【対象】付着した菌【試験結果】8時間で99%以上抑制（第13044083003-01号）試験報告書発行日：2013年6月14日（試験は1種類のみの菌で実施） ※3：【試験機関】（一財）日本食品分析センター【試験方法】試験室（約23m³）において布に付着カビ菌の発育を確認【抑制の方法】「ナノイー」を放出【対象】付着したカビ菌【試験結果】8時間で抑制効果を確認（第13044083002-01号）試験報告書発行日：2013年6月14日 ※4：＜スギ＞【試験機関】パナソニック（株）プロダクト解析センター【試験方法】試験室（約23m³）において布に付着させたアレル物質をELISA法で測定【抑制の方法】「ナノイー」を放出【対象】花粉（スギ）【試験結果】8時間で97%以上抑制（4AA33-151001-F01）。※5：【試験機関】パナソニック（株）プロダクト解析センター【試験方法】試験室（約23m³）において6段階臭気強度表示法により検証【脱臭の方法】「ナノイー」を放出【対象】付着したタバコ臭【試験結果】12分で臭気強度2.4低減

オーナー様向け

※「ナノイー」はウイルスなどを抑制する機能はありますが、感染予防を保証するものではありません。
「nanoe」、「、ナノイー」及び「nanoe」マークはパナソニック株式会社の商標です。

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「心地よさ」のスタンダード

密集回避運転

有償付加仕様

これからの新常識、密集回避アナウンス。



かご内の積載量に応じて、密集度合いを3段階に分け、段階に合わせた運転制御・注意喚起を行い、かご内の密集を回避します。さらに、複数台設置(群管理制御)時かご内の密集状態が検知された場合は、乗り場の密集を防ぐため、あらかじめ別のかごを呼び、乗り場の密集状態を抑制します。

※ 密集回避運転は乗車率を抑制するため、運行効率が低下します。

段階 1:密になる前(密集度:低い)



近接乗車を抑制

密集を避けて乗車することを促します。

段階 2:密になりそう(密集度:高い)



追加乗車を抑制

アナウンスが流れて、ドアが閉まり、途中階での呼び出しには応じず、行先階に直行します。

段階 3:密になった(密集度:かなり高い)



密集乗車を抑制

降車を促すとともに、密集状態が解消されるまでドアを開き待機し出発を抑制します。

LINE連携タッチレスエレベーター呼びサービス エレトモ

保全サービス機能

LINEアプリでエレベーターを呼び出し、目的階に移動できる。



利用者が日立のエレベーターのLINE公式アカウントと“友だち”になることで、ボタンに触れることなく、スマートフォンでエレベーターを操作できる画期的なシステムです。
エレベーターの「QRコード」を読み取るだけですぐに利用できます。

※ 以下の場合は、エレトモは適用できません。
・3台以上の群管理運転を行っているもの。
・停止階を制限する仕様であるもの(不停止階切り替え、セキュリティ運転など)。
・出入口が正面と背面に設けられているもの。
※ 当社と保全契約が必要となります。



※ LINE及びLINEロゴは、LINE株式会社の登録商標です。 ※ QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「コミュニケーション」のスタンダード。

エレベーターはコミュニケーションの場になります。
たとえば、かご内でニュースや天気をチェック、
最寄りのおすすめランチなどのローカル情報。
また、ゴミ出しや定時退勤日などのビルやマンション内の情報など、
“移動先の情報はエレベーター内で知る”
これが「コミュニケーション」のスタンダードです。



乗り場液晶インジケーター

有償付加仕様

エレベーターを待つ間利用者とコミュニケーション。

6.2インチカラー液晶パネルを採用した乗り場液晶インジケーターをラインアップ。
かご内液晶インジケーターと同様、日時表示*1や管制運転表示*2など、
利用者への情報提供をよりスムーズに行います。
また、かご内防犯カメラの映像表示にも対応可能です*1。



背景白　背景黒　開延長　地震時管制運転

＊1 当社と保全契約が必要となります。
＊2 各種付加仕様をエレベーター側に追加する必要があります。
※ エントランス階など、出入口ローカ所のみの適用となります。

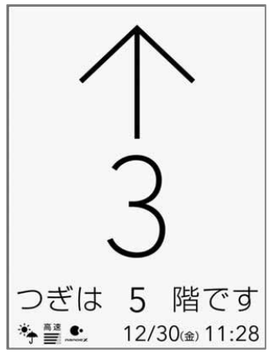
© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

かご内液晶インジケーター

基本仕様

エレベーターの乗車時間に利用者とコミュニケーション。





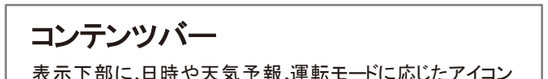
背景色：白



背景色：黒

コンテンツバー

表示下部に、日時や天気予報、運転モードに応じたアイコン表示を行います。



通常時



階床表示



満員案内



開延長案内

保全契約時の機能*2

保全サービス機能



天気予報表示機能



ヘリオス診断運転



カメラ映像表示

かご内の階床表示器は、8.4インチカラー液晶インジケーターを装備。視野角の広い「IPS」*1液晶パネルを採用し、視認性を向上させました。また、見やすくわかりやすい情報提供を行うために、数字の誤認性の少ないフォントとハイコントラスト文字表示を採用。日時*2や天気予報*2の表示、緊急時の4カ国語表示など、より多くの人々が快適に利用できる機能が充実しています。
さらに、背景色も白、黒の2色からお選びいただけます。

＊1「IPS」は(株)ジャパンディスプレイの日本における登録商標です。
＊2 当社と保全契約が必要となります。

緊急時4カ国語表示・放送

基本仕様

緊急時は、必要な情報を4カ国語でご案内。外国人利用者も安心



地震感知時や火災検知などの緊急時は、
液晶インジケーターに日本語・英語／中国語（簡体字・繁体字）・韓国語を交互に表示し、放送でもご案内します。



地震時管制運転
（日本語・英語）



地震時管制運転
（中国語・韓国語）



運転休止
（日本語・英語）



運転休止
（中国語・韓国語）

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

HITACHI
Inspire the Next

「安心」のスタンダード。

私たちが考える「安心」は、エレベーターを止めないことです。
エレベーターが停止してしまうということは、利用者の生活やビジネス、社会活動に支障をきたすこと。
トラブルや災害時、エレベーターは安全のために停止します。
その際、1秒でも早く運転を再開することが私たちの使命です。



「安心」のスタンダード

・ヘリオスドライブ
・ドアシグナル付きマルチビームドアセンサー
・ケアフルセンサー（乗り場側利用者検知機能）
・ラインキャッチセンサー付きマルチビームドアセンサー
・ケアフルドア（かご戸袋引き込まれ低減機能）
・初期微動感知地震時管制運転（リスタート機能付）
・停電時自動着床装置
・停電時低速継続運転装置
・冠水時の被害軽減
・非常時電源対応
・ロボット連動運転
・マンション向けセキュリティ
・オフィス・病院向けセキュリティ
・ヘリオスレスキューeye（双方向）
・画像解析システム連携
・かご内防犯カメラ
・ヘリオスウォッチャー

ヘリオスドライブ

保全サービス機能

地震が発生して、エレベーターが止まっても自動復旧で生活やビジネスを止めない。

震度4-5弱程度の地震があった際、エレベーターは安全のために運行を停止します。通常はフィールドエンジニアが現地で安全確認を行った上で運行を再開しますが、広域での災害時は、お待たせする場合がありました。そこで、日立は遠隔保全のネットワークインフラで、自動診断、運行上問題がないと判断した際に自動で運転再開を行います。利用者の生活やビジネス、社会活動を止めない。それがヘリオスドライブです。

後ほどフィールドエンジニアが
現地で安全を確認します。

広範囲で地震があると
フィールドエンジニアが
不足し、
お待たせする時間も
長くなります。



想像してみてください…
マンションやビルの
エレベーターが止まったら？
上層階の住民の生活や
テナントのビジネスが止まります。



東日本大震災時の茨城県某ビルでの
『ヘリオスドライブ』の効果

日時	震源地	規模	震度	状況
3月11日14時	三陸沖	M9.0	震度6弱	運転休止
3月12日16時	フィールドエンジニアによる本復旧			
3月19日19時	茨城県北部	M6.1	震度4	仮復旧
3月28日13時	フィールドエンジニアによる本復旧			
4月2日17時	茨城県南部	M5.0	震度3	仮復旧
仮復旧状態で稼働継続				
4月11日17時	福島県浜通り	M7.1	震度5弱	仮復旧
仮復旧状態で稼働継続				
4月12日8時	千葉県東方沖	M6.4	震度4	仮復旧
4月12日11時	フィールドエンジニアによる本復旧			
4月16日11時	茨城県南部	M5.9	震度4	仮復旧
4月16日16時	フィールドエンジニアによる本復旧			
4月19日23時	茨城県南部	M5.0	震度3	仮復旧
4月20日11時	フィールドエンジニアによる本復旧			

本震後、6回のエレベーター停止を伴う余震が発生しましたが、
ヘリオスドライブにより仮復旧。

合計不稼働時間を**約30時間**（推定）から
約1.5時間に低減

※1回の仮復旧にかかる時間を約15分として計算。
※当社と保全契約が必要となります。

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「安心」のスタンダード[ドア廻り]

HITACHI
Inspire the Next

ドアシグナル付きマルチビームドアセンサー*

B 標準装備仕様　P R 有償付加仕様

戸が閉まり始めるタイミングを、ドアシグナルの点滅でお知らせ。

マルチビームドアセンサーに、戸の閉まり始めるタイミングをお知らせするドアシグナルをプラス。戸が閉まり始める約1秒前に戸先端のLEDが点滅を開始します。また、かご内の戸閉じボタンが押された場合には、戸が閉まり始めると同時に点滅を開始します。

*【 B型：マルチビームドアセンサー(基本仕様)
P型・R型：マルチビームドアセンサー(有償付加仕様)】



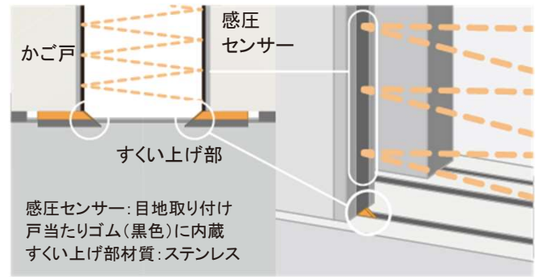
ラインキャッチセンサー付きマルチビームドアセンサー*1

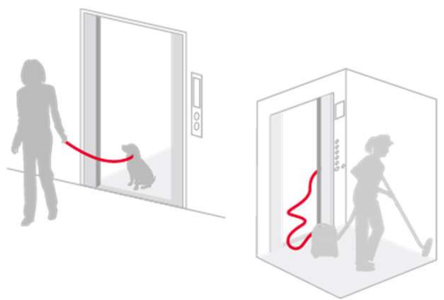
有償付加仕様

ひも状の細いものが戸に挟まれるのを防ぐ。

乗り降りする人を検知してドアへの挟まれを抑止するマルチビームドアセンサーに加えて、かご戸先端部分に「ラインキャッチセンサー」を設置。感圧センサーで、ペット用のリードや掃除機のコードなどのひも状の細いものが挟まれていないことを確認してからエレベーターを運転させます。

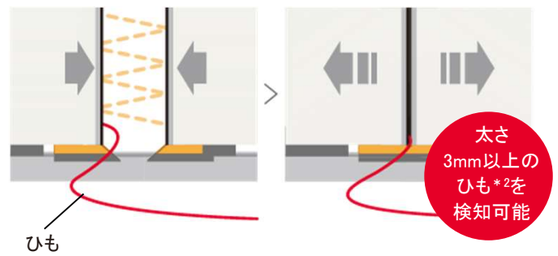
*1【 B型：マルチビームドアセンサー（基本仕様）
P型・R型：マルチビームドアセンサー（標準装備仕様）】
*2 変形して3mm未満の太さになるものは検知できない場合があります。
※ ラインキャッチセンサーの検知範囲は床面から高さ1.2mまでとなります。





すくい上げ部で、「ひも」などをセンサー部分に誘導します。

感圧センサーが「ひも」などを検知すると戸が開きます。



ケアフルセンサー（乗り場側利用者検知機能）

B 基本仕様　P R 標準装備仕様

乗り込もうとする人を検知して、乗り込み時の安全性を高める。

乗り場側に向けられたセンサーが、乗り込もうとする人や荷物を検知し、閉まりかけていたドアを開くシステムです。車いすやベビーカーも検知しますので、あわてることなく、スムーズに乗り込むことができます。（閉じ端：15cmまで検出）ドアとの接触や挟まれを未然に防ぎます。

※ 乗り場に人が残っている場合、戸が閉まらないことがあります。
また、センサーは、戸が閉まりきる直前には無効になります。



※ 写真のビームは、イメージです。

ケアフルドア（かご戸袋引き込まれ低減機能）

有償付加仕様

かご戸袋部分へ指などが引き込まれる事故を抑止。

戸が通常よりもゆっくりと開き始め、かご内の戸袋付近に近づく利用者の手や荷物などをセンサーが検知すると、音声案内*で注意を喚起します。

＊ 音声案内装置（有償付加仕様）が必要になります。
※ センサー検知の有無にかかわらず、本仕様を適用した場合、戸がゆっくり開き始めます。



© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「安心」のスタンダード[緊急時]

初期微動感知地震時管制運転(リスタート機能付)　標準装備仕様

地震を感知したら、
自動で最寄り階に停止し閉じ込めを防ぐ。



地震発生時、強く揺れる主要動(S波)が来る前の、初期微動(P波)を感知し、最寄り階で自動停止。戸を開き、利用者の避難を誘導します。主要動を感知しない弱い地震のときは、一定時間が過ぎた後、自動的に運転を再開。また、強い地震のときは、専門の技術者による点検が終わるまで、戸を閉じて運転を休止します。

停電時自動着床装置　標準装備仕様

停電時、バッテリー運転に切り替えて
最寄り階に停止し閉じ込めを防ぐ。

停電を検知した場合に動力電源をバッテリーに切り替え、自動的にエレベーターを最寄り階まで運行して待機させます。自家発電設備のない建物において、停電時のかご内に閉じ込められる不安を和らげます。

停電を検知
↓
「停電」とかご内表示し、停電灯が点灯。
↓
安全装置などの状態を確認。
↓
最寄り階に着床し、戸を開きます。
↓
一定時間後、戸を自動的に閉めます。
↓
停電が終わると、自動的に正常運転に戻ります。



液晶インジケーターへ表示

停電時低速継続運転装置*2　有償付加仕様

停電時、約10分間*1の継続運転で最寄り階に停止し閉じ込めを防ぐ。

停電発生時に安全装置などを確認した後、約10分間バッテリーにてエレベーターを低速で継続運転します(定格速度45、60m/minのみ対応可能)。

*1 使用頻度や積載負荷により、変動します。
*2 停電時自動着床装置との併用はできません。

停電を検知
↓
「停電」とかご内表示し、停電灯が点灯。
↓
安全装置などの状態を確認。
↓
最寄り階に着床し、戸を開きます。
↓
約10分後、低速で継続運転。
↓
約10分経過後、最寄り階に着床し、戸を開きます。
↓
一定時間後、戸を自動的に閉めます。
↓
停電が終わると、自動的に正常運転に戻ります。

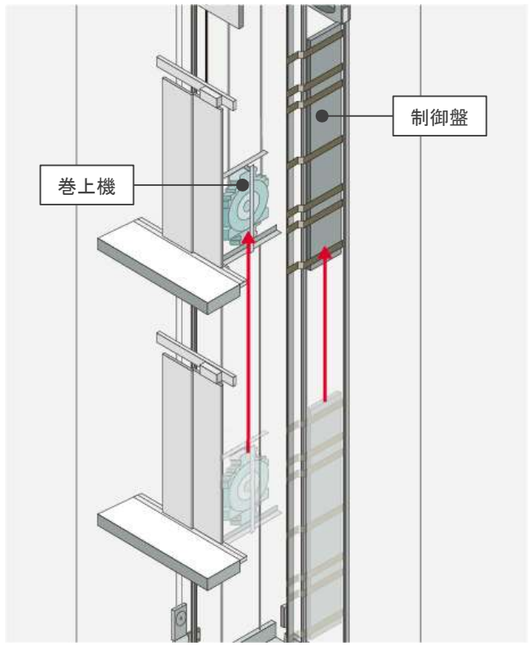


液晶インジケーターへ表示

冠水時の被害軽減　有償付加仕様

台風などの大雨による水害に備える。

制御盤および巻上機の位置をピット底より高い2階付近*に設置することで、冠水による被害を軽減します。

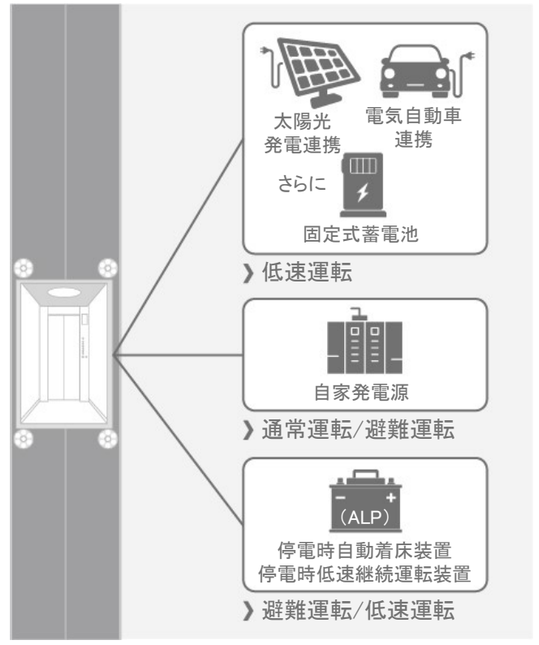


* 最下階が1階の場合。
※ 制御盤、巻上機の設置位置の変更は、別途お打ち合わせが必要です。
詳細につきましては、当社営業担当者にお問い合わせください。

非常時電源対応　有償付加仕様

電力供給が途絶えても
さまざまな電力設備に対応し運転を継続。

災害などで商用電力の供給が途絶えた場合でも、さまざまな電力設備に対応して運転を続けます。



※ 停電時自動着床装置以外の設備との連携は、別途お打ち合わせが必要です。
詳細につきましては、当社営業担当者にお問い合わせください。

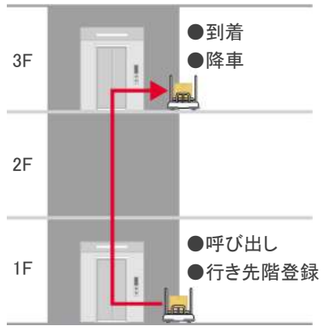
ロボット連動運転　有償付加仕様

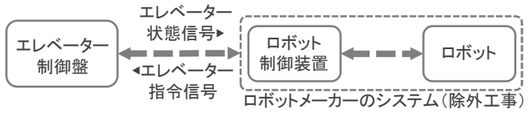
人のいないその場所に。ロボットのエレベーター利用をサポート。

労働人口の減少や宅配物流の増加によりロボットの社会実装が加速しています。ビル内のロボット移動という新たな課題に備え、ロボットのエレベーター利用をサポートするロボット連動運転を提供します。各ロボットの制御装置とエレベーターを接続することで、ロボット専用のエレベーターとして、乗り込みや各フロアへの移動が可能となります。

※ ロボット連動運転は別途お打ち合わせが必要です。
詳細につきましては、当社営業担当者にお問い合わせください。







© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「安心」のスタンダード[セキュリティ]

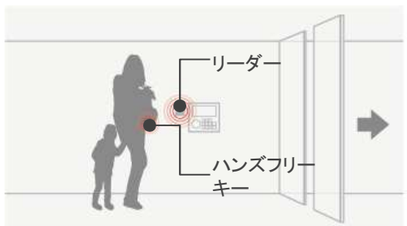
マンション向けセキュリティ

有償付加仕様　保全サービス機能

設備機器とエレベーターを連携したタッチレスセキュリティ(ハンズフリーキー)

オートロックとエレベータードアでダブルロックとすることで、居住階への移動を制限しセキュリティ性を高めるだけでなくエレベーターと連携し快適な移動をサポートします。

立ち止まらずに最大検知距離2.0m



集合玄関オートロック承認
ハンズフリーキーを身に着けておくだけでリーダーが自動認証し、共用部集合玄関の扉が開きます。両手がふさがっていても簡単に入館できます。



エレベーター呼び・居住階自動登録
エレベーターホールでは、ハンズフリーキーをお持ちの方がリーダーに手をかざすことで、エレベーター呼びボタンと居住階が自動で登録されるので、タッチレスで乗車でき居住階まで移動できます。

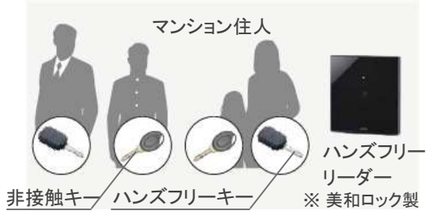
ハンズフリーキーで、さらに快適・便利に



帰宅時の駐輪場ゲートの開閉
自転車で外出から戻った際も、ハンズフリーならスムーズに駐輪場へ入れます。



宅配ボックスからの荷物取り出し
宅配ボックスのリーダーに手をかざすことで、荷物を取り出すことができます。



ハンズフリーキー／非接触キー*を読み取り可能なハンズフリーリーダー
用途に合わせてハンズフリータグ／非接触キーをお選びいただけます。
＊ 使用できる種類については別途お問い合わせください。

設備機器とエレベーターを連携した快適な移動(画像解析システム連動)

集合玄関に設置の防犯カメラや、専用の顔認証端末にて居住者の顔を認証し、オートロックの解錠。
同時にエレベーターをエントランス階へ呼び寄せることができます。

手ぶらで快適移動



集合玄関オートロック承認
居住者の顔を認証し、共用部集合玄関の扉が開きます。



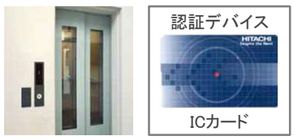
顔認証エレベーター呼び
集合玄関通過と同時にエレベーターをエントランス階に呼び寄せます。

オフィス・病院向けセキュリティ

有償付加仕様　保全サービス機能

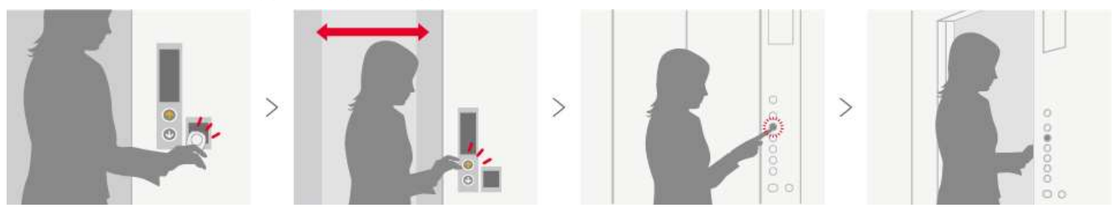
建物内の入退室管理と連携したエレベーターセキュリティ

オフィスや病院などの入退室管理を行う統合型ファシリティマネジメントソリューション「BIVALE(ビヴァーレ)」と連携して、エレベーター呼びボタンの登録制限や、停止階の利用制限によりセキュリティ性を高めます。



特定の人だけエレベーターを利用可能にしたいとき

エレベーター呼びボタン登録の制限と一時解除



エレベーター乗り場で認証キーをタッチします。(エレベーター呼びボタンを一定時間登録することができます)

エレベーター乗り場で呼びボタンを押します。

エレベーター到着後、エレベーター内で行先階ボタンを押します。

目的階到着。

オフィスの警備と連動したいとき

フロア警備開始時



オフィスエリア



エレベーターホール

フロア警備終了時



エレベーターホール

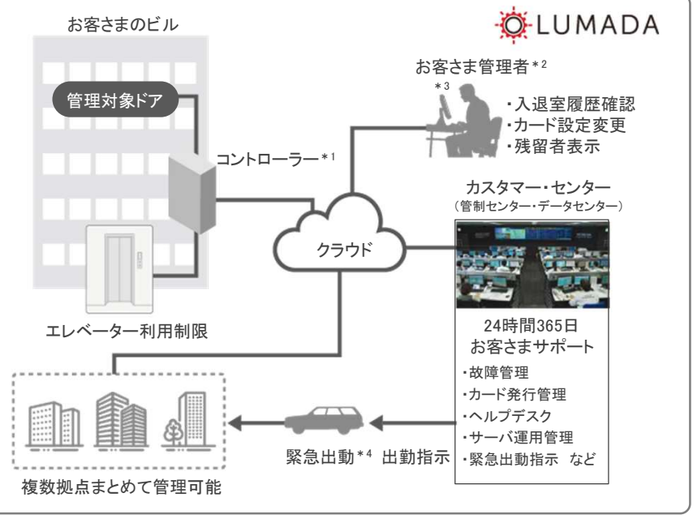




オフィスエリア

BIVALE入退室管理の概要

オフィスや病院などの入退室管理をインターネットを経由してどこからでも行えます。複数拠点もまとめて一元管理でき、カスタマーセンターでシステムを常時監視しています。



＊1 サービス拡張時には、コントローラーやインターフェースの増設が必要となります。
＊2 エレベーターについては、パソコンによる遠隔管理には対応していません。
＊3 パソコンに必要なスペックは、当社までお問い合わせください。
＊4 ご契約に応じて対応いたします。
※　当社と保全契約が必要となります。

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

「安心」のスタンダード[セキュリティ]

ヘリオスレスキューeye(双方向)

保全サービス機能

閉じ込められたら、遠隔操作ですぐに救出。



万が一、故障により利用者がかご内に閉じ込められた場合、管制センターからかご内のインターホンとカメラ映像で状況を確認。エレベーターを遠隔操作し、素早く救出します。同時に専門技術者が緊急出動して、故障の点検・復旧を行います。また、遠隔救出時、かご内の液晶インジケーターに対応者の画像を表示するので、対応者の顔が見えることで、利用者の不安を和らげます。



※ 当社と保全契約が必要となります。
※ エレベーターの状況により遠隔救出出来ない場合があります。

画像解析システム連携

有償付加仕様

非接触の顔認証で清潔に、セキュアに。



防犯カメラや専用端末での顔認証による画像解析システムの活用により、自動ドアやセキュリティゲートの通過から、エレベーターをエントランス階へ呼び寄せることができます。

かご内防犯カメラ

保全サービス機能

犯罪を抑止するカメラの目でエレベーター内でのもしもに備える。



かご内の状況を監視して、犯罪やいたずらを抑止します。防犯カメラ映像をかご内液晶インジケーターに表示する機能＊に加え、乗り場液晶インジケーターにもカメラ映像を表示できるようになりました。かご内と乗り場の両方で「見られている」ことを強くアピールでき、犯罪抑止効果を高めます。



かご内液晶
インジケーターへの
カメラ映像表示＊



乗り場液晶
インジケーターへの
カメラ映像表示＊



かご内防犯カメラ

＊ 当社と保全契約が必要となります。

ヘリオスウォッチャー

保全サービス機能

防犯カメラ映像と、学習した平常時の画像を比較して異常行動をすばやくキャッチ。

かご内で暴れる、襲われる、倒れこむ・・・異常な状況には迅速に対応することが重要です。ヘリオスウォッチャーは、防犯カメラと重量センサーを活用して異常行動を検知し、いたずらや犯罪に迅速に対応します。
利用者の“あばれ”などを検知し、音声での呼びかけを行うとともにエレベーターを最寄り階に停止させドアを開く“あばれ”検知と、利用者の急病などによる倒れこみといったエレベーター内の滞留を検知し、音声で呼びかけながら、エレベーターを指定階まで運転しドアを開く“滞留”検知があります。

※ 以下の場合は、ヘリオスウォッチャーは適用できません。
・大型防犯ガラス窓を採用する場合
・防犯ガラス窓を採用して、かつ、太陽光が入射する可能性がある場合
・SL-02、DX-02天井デザインを採用する場合
※ 当社と保全契約が必要となります。

“あばれ”検知



正常時　異常時　検知後

“滞留”検知



正常時　異常時　検知後

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

HITACHI
Inspire the Next

日立は、導入後も
ずっと続く安心を。

ずっとつながっているからこそ、見えてくるものがある。
たとえば、エレベーターの稼働状況や保全状況、復旧状況などの情報。
あるいは遠隔監視端末とビル設備が連携して、まとめて見守るサービス。
これらのソリューションにより、お客さまとお客さまのビルをつなぐことで、
施主、管理者、利用者すべての人に、確かな安全・安心・快適を提供してゆきます。



・BUILLINK（ビルリンク）
・日立ビルシステムの保全体制
・スーパーヘリオスメンテナンス
・設備まるごと監視サービス

BUILLINK（ビルリンク）

保全サービス機能

LUMADA

いつでもどこでもビル管理が行えるサポートツール。

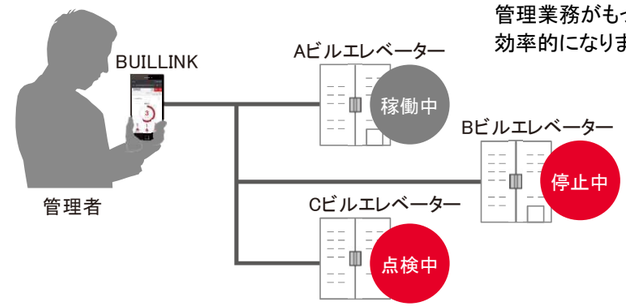
日立の遠隔保全インフラを活用し、管理者がリモートワークでビル管理が行える、それがBUILLINKです。
エレベーターの状況が、ほぼリアルタイムで把握できるので、現地に行かなくても遠隔確認・操作が行えます。
これからはビル管理もリモートワークの時代。日立の考えるビル管理のスタンダードです。

BUILLINK
ビルリンク

どこにいても管理できる

例えば、複数ビルのエレベーター管理ができる。

移動によるリスクや
時間のロスも減らせるから、
管理業務がもっと
効率的になります。



リアルタイムで把握できる

利用者への対応が迅速に行える。

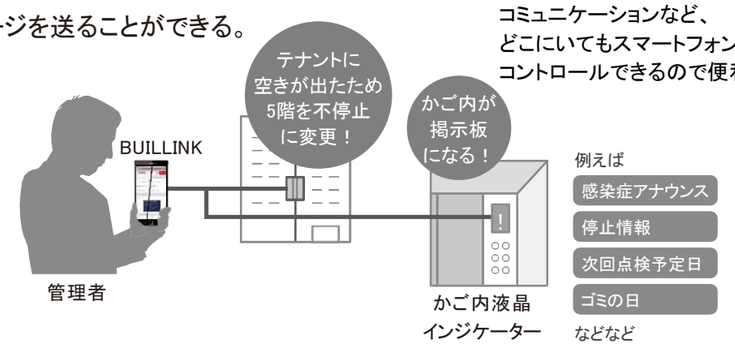
迅速な対応が求められる
エレベーター管理業務で、
利用者や施主の
安心につながります。



スマートフォンでコントロールできる

例えば、特定階を不停止にしたり、
利用者にメッセージを送ることができる。

いざという時や、利用者との
コミュニケーションなど、
どこにいてもスマートフォンで
コントロールできるので便利です。



© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

日立は導入後もずっと続く安心を

日立ビルシステムの保全体制。



管制センター

24時間365日、お客さまのビルを見守る

エレベーターやエスカレーターはもちろん、さまざまなビル設備の機能を24時間365日体制で監視。高度なコンピューターシステムとプロフェッショナルなエンジニアにより、不測の事態にも迅速に対応します。



データセンター

稼働データを蓄積し、最適な運用・管理に役立てる

稼働データを一元管理し、ITを応用したシステムの頭脳として情報を提供しています。お客さまのエレベーターの稼働履歴、故障履歴などのデータがすべて集約されています。



専門技術者教育

昇降機をはじめとするビル設備の安全・安心・快適を実現するためのプロフェッショナルを育成します。

エンジニアリング教育を中心に、実機を使った技術・技能の研修、安全に関する学習、お客さまの立場に立って考えられる人財の育成を行っています。

教育カリキュラム

高い技術力を養うため、技能レベルに応じて4段階、22のカリキュラムを年140回に及ぶ社内研修を実施し技術力の研鑽に励んでいます。



新入社員教育
- 社会人としての心構え
- 安全行動
- 昇降機の概要と作動原理



基礎教育
- 機種別昇降機の点検と調整方法
- 消耗部品の交換方法
- 閉じ込めなどの緊急対応方法
- 電工作業



中堅教育
- 昇降機の設備と修理方法
- ブレーキの整備と修理方法
- 故障原因の究明方法
- 診断ツール操作方法



エキスパート教育
- オーダーエレベーターの保守点検方法
- 群管理制御エレベーターの保守点検方法
- 経年エレベーターの劣化診断方法
- 法定検査

社内認定制度

技能レベルを見極める社内認定制度を実施しています。

昇降機保全整備士補	昇降機保全整備士3級	昇降機保全整備士2級	昇降機保全整備士1級（昇降機検査資格者）

部品センター

通常時は効率的に、緊急時は緊密なネットワークを駆使し、スピーディーに部品をお届けします。

東西2カ所の部品センターは、全国7カ所の倉庫および全国の事業拠点と、ITを駆使した予防保全システムでつながっています。予防保全システムとは、データベース化したお客さま設備の基本情報（構成部品や型番など）と蓄積された運転データから部品の寿命を予測するものです。通常時はこの予測データに基づき、必要な部品を倉庫や拠点に事前配備、タイムリーなメンテナンスを支援します。緊急時にもこれらのデータを活かし、ネットワークを駆使して迅速に現場へ部品を配送します。



最新製品から、十数年経過した製品の部品まで、約2万アイテム、約200万点におよぶ部品を常備。

広域災害時の対応

全国約8,500名のスタッフが連携し、いち早く復旧に向かいます。

災害時の状況により、全国約390カ所のサービスネットワークを活用した支援体制を整え、迅速な復旧支援を行います。また当社には、フィールドエンジニア以外にも、定期的な復旧教育を受けた数多くのスタッフがおりますので、有事の際には総合力により復旧対応を支援します。





広域災害対応訓練の様子

© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.

日立は導入後もずっと続く安心を

スーパーヘリオスメンテナンス

保全サービス機能

24時間365日、高度な遠隔点検・診断により利用者の利便性も考えた確かなメンテナンス。

LUMADA

お客さまのエレベーターを遠隔で監視・診断し、稼働データを収集・解析することで、エレベーターに最適なメンテナンス計画を構築します。また「ヘリオス」の遠隔点検機能により更に品質向上と停止時間のミニマム化を両立した高度なシステムです。

スーパーヘリオス

1

「遠隔監視・診断」から「遠隔点検」へ進化

ITを駆使し、エレベーターが24時間365日、稼働するたびに遠隔で点検。

2

故障の予兆を早期発見する精度が向上

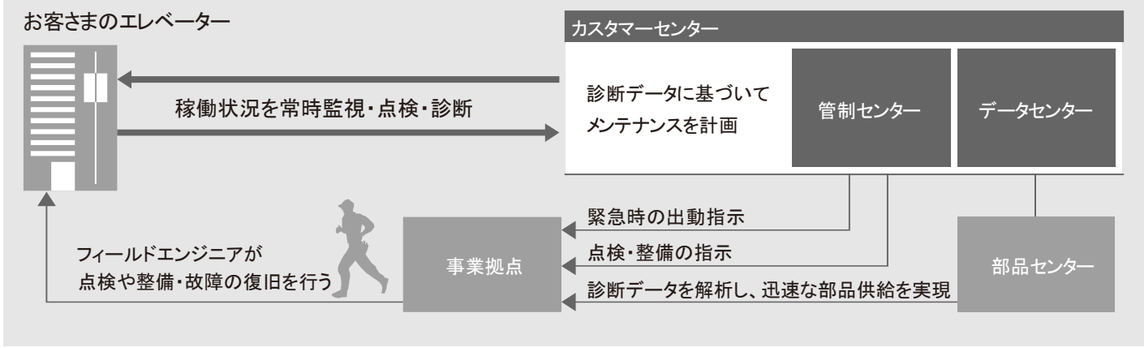
点検をIT化することで、ドアの開閉状態や開閉を司るベルトの緩みなどを0.1㎜単位で定量的計測。

3

見えない部分の点検はITで診断

目視で確認ができない部分も遠隔で点検を行い、現地ではフィールドエンジニアがメンテナンスコンピューターを用いて定量的に調整。

サービスフロー



万が一のトラブルにも、遠隔自動解析によって迅速な復旧対応を行います。

AIによる故障原因解析

故障時の運行データを自動的に収集・AIで解析し、原因を突き止めてフィールドエンジニアに連絡。従来に比べ、迅速な復旧が可能です。

遠隔軽故障復旧

故障時の運行データを自動的に収集・解析し、復旧可否を判定。部品の交換や調整を必要としない軽度の故障については、遠隔操作で仮復旧させます。

診断結果は、お客さまに
わかりやすくご報告します。

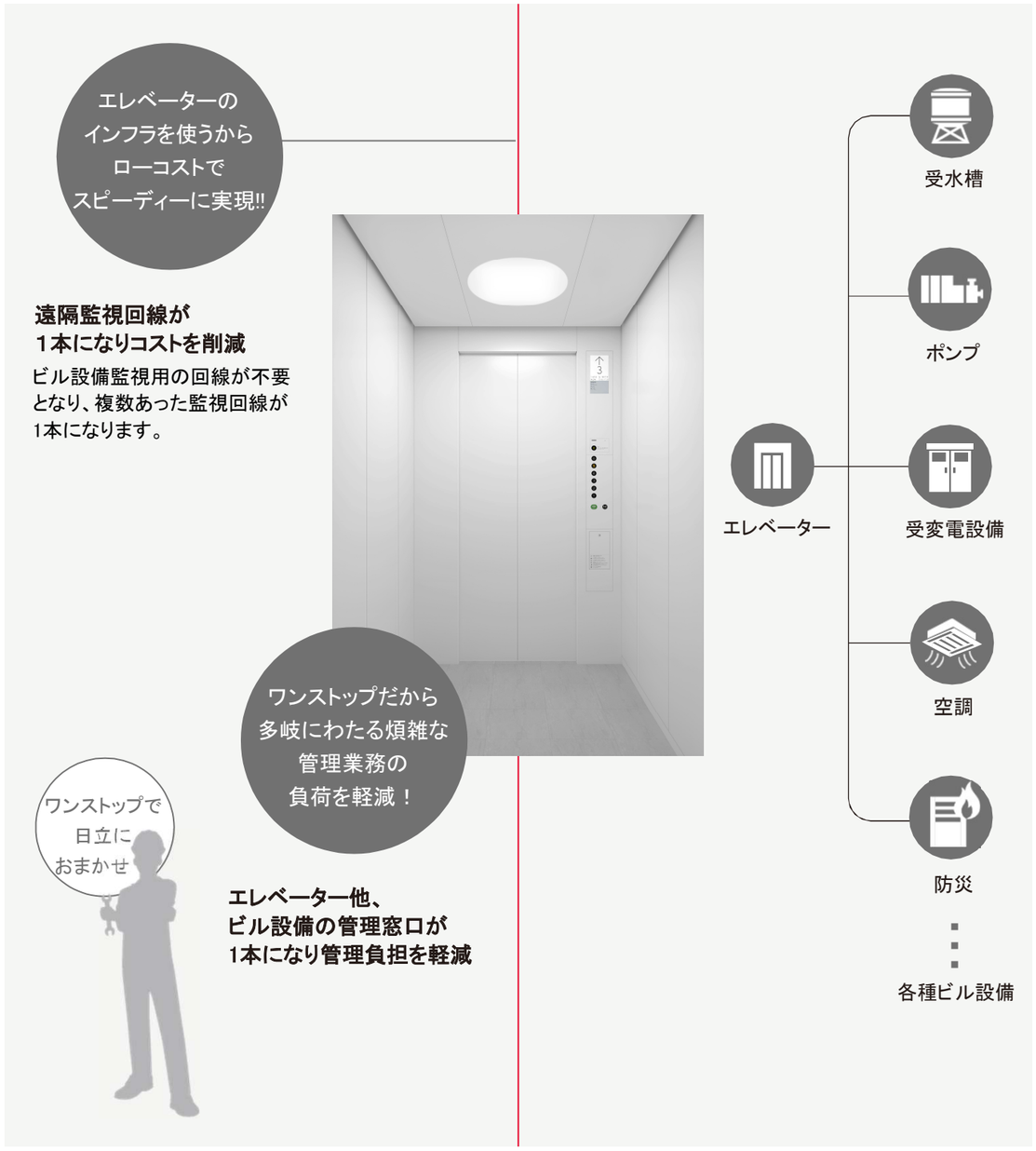
自動診断運転の診断結果や、フィールドエンジニアによる点検内容と結果は、メンテナンスレポートにてお客さまに毎回ご報告します。

設備まるごと監視サービス

保全サービス機能

エレベーターのインフラで、さまざまな設備をまるごと監視。

エレベーターの遠隔監視回線を活用し、各種ビル設備を一括監視できるサービスです。
ビル設備のために新たに回線の数を増やすことなく、低コストで安心の管理体制が構築できます。



© Hitachi Building Systems Co., Ltd. 2021. All rights reserved.